

教育学部を出て図書館司書として働く

馬場 綾菜

大学を卒業し、小学校教師となり、仕事の難しさとやりがいとを3年間味わった後、自分のやりたいことをもつとやりたいと感じ、転職。今は学校で図書館司書をしています。

司書をしていて喜びを感じる時は多々ありますが、特に喜びを感じる時は次の3つです。

1つ目は、「この本授業で使えたよ！」と先生方に言っていただけの時です。子どもたちの授業に役立てたということ、そして短い時間で授業準備をしなければならぬ先生方に役立つ資料を的確に提供できたということが嬉しいです。

2つ目は、子どもたちが質問にきた答えと一緒に発見できた時です。子どもたちはいろんな疑問を持って図書館にきます。特に多いのが、「新種の虫みつけた！この虫何？」です。新種ならば本には載っていないのですが、

本の中にその虫を見つけた瞬間、発見の喜びにひたる子どもたちの笑顔を見ると、幸せだと感じます。

3つ目は、いつも騒がしい子どもたちが読み聞かせの本に夢中になる瞬間です。普段保護者の方や先生方に集中できない、手がかかると心配されている子どもたちが、私が選んだ絵本の世界にぐっと引き込まれてくれる瞬間にあうと、とても嬉しくなります。高学年相手だと尚更です。司書をやっていてよかった！がんばってよかった！と疲れも吹き飛びます。

こうして達成感を持つて働くことが出来るのは、大学の学びと教師経験があるからです。その経験があるから、子どもたちと先生の求めるものを察知できます。これは私が社会で仕事を得て生き抜くためにも、図書館を活発に利用し続けてもらうためにも、強力な武器です。この先、私は司書として働き続けるかもしれないし、他のことを始めるのかもしれないし、でも、どんな道を選んでも教育の経験は絶対に生きると信じています。在学生のみなさんが今学んでいることも、これからの人生の大きな力になってくれますように。

(はば あやな 辰野町立辰野東小学校司書)